

全道医家囲碁大会

名人戦は高田稔5段格が初優勝！ 本因坊戦は瀧本将人初段が初優勝！

第45回全道医家囲碁大会を終えて

全道医家囲碁連盟

常任幹事 岡村 廉晴



平成30年11月18日（日）に第45回全道医家囲碁大会が開催されました。名人戦14名、本因坊戦10名の参加で、熱戦が繰り広げられました。

本因坊戦の決勝は瀧本将人先生と大泉和夫先生の対決でした。大泉先生の残り時間が数秒になってからも、一手一手腕組みされて考え込む姿に周囲がハラハラドキドキしていたところ、時間切れのため瀧本先生の優勝となりました。

名人戦は高田稔先生と滝本昌俊先生の対決で、終盤極めて微細な形勢となり、滝本先生が最後に不要な手入れをしたため、高田先生の半目勝ちとなりました。直後、高田先生が「この碁は僕の負けです」と発言。結局、上村収蔵棋士の裁定で高田先生の優勝が決まりました。この半端ない高田発言は肝に染み入りました。

40年近く前の話で、記憶も曖昧なところがあります。高田先生が入学した当時は私に4子の手合いでした。3年後、私が卒業する時には互い先になっており、彼の上達の早さに度肝を抜かれました。彼の本選への出場が待ち遠しかったのですが、中々出て来ないので、優勝記を書く時に呼びかけようと考えておりました。本人が読まなくとも周りの人から伝わるはずですが、しかし、優勝記を書く機会はまったく訪れませんでした。高田先生と樋口栄作先生との激闘譜が、今から楽しみです。我々ロートルも黙って見ている訳にはいきません。

2016年3月、囲碁界に衝撃が走りました。イ・セドル九段がAlphaGoに1勝4敗で負け越したとの報道です。井山なら負けないだろう…は希望的観測だったようで、その後のプロ棋士との対戦成績は勝率9割8分を超えています。

AIの打つ手には、気合の一手、勢いの一手、意地の張り合いや我慢の一手はありません。ひたすら大きい場所、ホップ、ステップの気配もなく、いきなり急所の地点に打ち降ろされます。その一方で、両翼のない単騎三々入り、3間以上余裕のある石へ

のコスミ付け2立を許す、味消しにも見えるのぞき、肩ツキ。これらの打ち方は、これまで培ってきた常識、棋理に反するかのような。木谷實と呉清源が発表した新布石によって両雄は勝利街道を驀進したのですが、その後、新布石が優れている以上に両雄の読みの深さにこそ意味があったとの見解が大勢を占めております。AIが突然、単騎三々入り、味消しのぞきを打たなくなった時、はたして…？ AIと人類-プロ棋士-との関係が今後どのように展開するのか目が離せません。

最後に、いつも心地よい場を提供してくださる北海道医師会事務局の皆様には厚く御礼を申し上げます。

名人戦優勝記

神居ペインクリニック

高田 稔



このたび、名人戦に初参加させていただき、優勝の栄誉をいただきました。1勝を目標にしておりましたので、自分はもちろんのこと、周りの方々もびっくりされていた様です。対局した4局は全て苦しい碁でしたが、なんといっても滝本先生との決勝戦は本来、私が半目負けのはずの碁だったのです。

<第1譜>

滝本先生の黒番、上下両小目に対し、私は白番2連星でスタート。私は時間を使う方なので今大会は全局星打ちと決めて、ある程度作戦を決めていましたが、あまり効果はありませんでした。黒5のはやりの大ゲイマジマリに対し、白6,8のツケオサエはこれまたはやりの様子見。いずれもAI（人工知能）によってもたらされた流行です。黒5が打たれた時、(AIだ)と心のなかでつぶやきましたが、白6を打った瞬間、滝本先生が「AIだ！」と発しました。囲碁は「手談」とも申しますが、(お互い最近のプロ棋譜を勉強してますね)とやり取りしたようで、早速嬉しくなりました。もちろん、こんなところで勝敗が決まるわけではありません。滝本先生の棋風は一言でいうと、堅実。守るべきところはしっかり守って、あとで鋭い狙いを持った碁、とお見受けしました。黒9,19にそれが表れていると思います。白20の打ち込みに黒21カタツキから白2子を切り離

し、下辺に少なくない黒地を確保。代償に得た白模様を黒39から49まで軽快に消しに回って黒好調です。ちなみに、私の棋風は優柔不断。武宮流の厚み派になったり、趙治勲流地取り派になったり。AI流になったり。時の強い人をマネするミーハーなんです。

＜第2譜＞

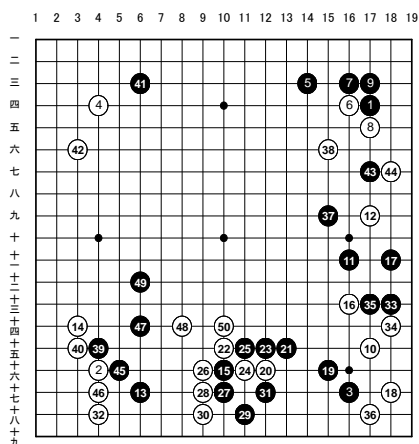
前譜黒39の右辺打ち込みから51と動いていきました。以下白66まで白は根拠を奪われ、遁走。黒好調が持続していますが、黒64の当てをいつでも打てたのを、滝本先生は「効かないと思いました」とのこと。さらに黒67、71と今度は下辺白を攻めてこられました。白も負けじと反撃しますがいつのまにか右辺白一団がピンチ。白96が不急の一手だったでしょうか。黒97で一路上に包囲されていたら白はかなり危なかったと思います。黒97では白98という抜け穴が生じ、ピンチを脱しました。

＜第3譜＞

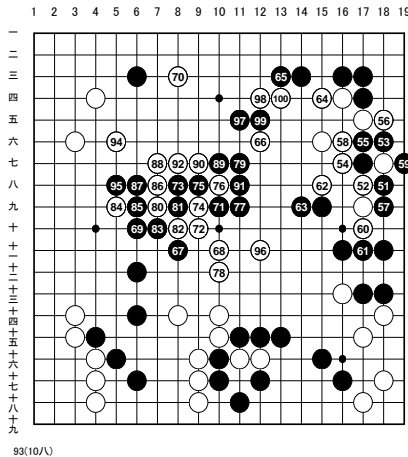
黒優勢なのですが、黒113と白114の交換がのちに左辺黒一体が攻められることとなり、どうだったでしょうか。白146、150は錯覚。黒151を265としていけば白アウトでした。また白166は163に断点を守っていれば黒死のようでした。このあたり双方時間が迫ってきて失着続きです。結局、白172に放り込んでコウになりましたが、右辺の白の大石に2眼がありません。なので、右辺白の大石を生きるためのコウ材を探すべき（例えば黒149の2路下など）でしたが、左辺白174ではもちろん効いてくれず、コウを解消され、泣く泣く白176と手を戻さざるを得なくなつては白大損です。さらに白176も悪手で、白180としっかり生きるべきでした。のちにダメ詰まりの罪（白146）で黒189まで白4子まで取られてし

まいました。しかも黒先手です。一体白は何をやっていたのかわかりません。ポーゼンとして盤面を眺めましたが、左下隅の白地が大きく、意外と細かい。気を取りなおしてヨセに入りました。ヨセは双方時間がない中、最善を尽くしたと思います。黒269・半コウツギにて終局。普通棋譜はこれで終わります。つまり、269手完、黒半目勝ちとなるはずでした。白174の無コウと白176の悪手が敗着となるはずでした。ところがこの碁の棋譜はまだ続きます。整地をするため、ダメを詰めているときです。滝本先生、疲労のためか、黒281（8の一）と自分の地の中に入れてしまったのです。1目損の手です。一瞬、（あれっ）と思いました。時間がないので目算は全くできていません。ただ細かそう、としかわかりません。まさか勝敗に直結するとは思わず、黒289手をもって終局。整地して黒39目、白33目。盤面黒6目勝ち。コミを引いて白半目勝ちでした。10数年前のプロタイトル戦・棋聖戦でのダメツメ事件（昔の日本式ルールでは最後のダメツメは勝敗とは無関係の作業として扱われていたために、アタリを無視した棋士に相手棋士がクレームをつけ、負けと裁定された。それ以降、ダメツメ作業も慎重に交互におこなわれるようになった）で、ダメツメをすべて記載した棋譜が新聞に掲載されたことを思い出しました。今回の棋譜も、スタッフの方が録画ビデオを見てダメツメを最後まで記載して頂いた、珍しい棋譜となりました。滝本先生には優勝をプレゼントして頂きました。複雑な気持ちですが、来年以降、真の優勝を目指してまた参加したいと思います。最後に、主催されました三宅会長・南田副会長・諸先生方、講評いただきました上村プロ棋士、準備・運営された医師会スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

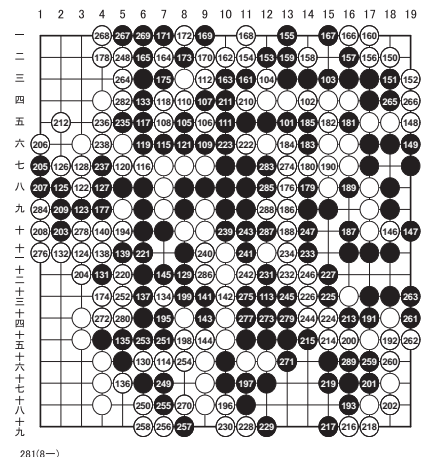
＜第1譜（1～50）＞



＜第2譜（51～100）＞



＜第3譜（101～289）＞



第四十五回全道医家囲碁大会 本因坊戦に参加して

札幌市医師会

瀧本 将人



去る11月18日に開催された全道医家囲碁大会の本因坊戦に初めて参加させて頂きました。私は今年の春に初段の免状をとりましたが、この秋は忙しく実戦から暫く離れていました。また、全道から強い先生方が集まるとのこと、「四連敗もありうる、それだけは避けたい」という想いで臨みました。

初戦の相手は、北広島市の竹内實先生（四段格）でした。三子置かせて頂いて、私が中盤までリードを保っていましたが、私のかなり多くの石が死んでしまい、少し悪くなっていました。しかしその後、死んだ石の一部を復活させることができました。形勢としては、五分五分位であったかと思いますが、竹内先生の時間切れで勝たせて頂きました。

第二局目は、佐藤鉄典先生（初段）と互戦で私の先番でしたが、中盤までで佐藤先生の地が大きくなり少し差をつけられていました。このままでは負けになる、と思っていましたところ、佐藤先生の地模様に入っていく手が成功し、逆に私の地にすることができて勝つことができました。

第三局目は会長の三宅直樹先生（五段）との四子局でした。序盤で私の石の一部が死んでしまいましたが、置碁なのでまだまだと思って打ちました。中盤から終盤にかけて、三宅先生の大石を捕らえることができました（その代わり私の石もかなり死にましたが）。その後さらに地を増やすことができ、勝利することができました。

最終局の決勝戦は、大泉和夫先生（四段格）との三子局でした。序盤で小目の定石を私が間違ったようで、さらに中盤から終盤にかけて、私の死んだと思った石ができて、内容的には私の負けた碁でした。しかし結局、大泉先生の時間切れで勝たせて頂きました。

した。局後に、私の死んだと思った石は、大泉先生によれば、まだ生きていたとのことでした。

この様な訳で、四局中二局が相手の先生の時間切れで勝たせて頂き、優勝させて頂きました。もっと勉強して次回からは実力で勝ちたいと思っております。

以前からお名前を伺っていた先生で、この大会で初めてお会いすることができた先生がおられました。私は現在、札幌に住んでおりますが、北広島市がまだ広島村であった昭和39年から暫く住んでおりました。竹内先生は広島で大きな病院を建てられましたので、お名前を伺っておりました。私の伯父が北広島市医師会の会長を暫く努めていたことがあり、竹内先生ともご懇意にさせて頂いたと思います。初戦で私が竹内先生と対局することになったのも、このような御縁かと存じます。

名人戦で準優勝された滝本昌俊先生は、以前から囲碁の強い同姓の先生がおられることを伺っておりました。私の曾祖父のお兄さんの子孫に医者の学校にいった方がいるようだ、と亡くなった父が話していたようなので、私が滝本先生にお手紙を差し上げたことがあります。御返事を頂いて親戚ではないことが分かりましたが、「ず〜っと前の祖先は同じでは？」という気持ちがしております。

上村収蔵先生には懇親会でいろいろとお話しをお聞かせ頂くことができました。今回は時間がありませんでしたが、次回は是非指導碁をお願いしたいと思っております。

私は頭のトレーニングのためにと時々碁を打っていますが、このように囲碁を通して多くの方々とお知り合いになりお話しできることは、近い将来、高齢者の仲間に入る予定である自分にとってとても良いことと考え、これからも囲碁を続けていきたいと思っております。

最後に、この大会を企画、開催運営して頂きました全道医家囲碁連盟の三宅直樹会長をはじめ、役員の方、北海道医師会の先生方、事務局スタッフの方々に御礼申し上げます。

本年も宜しくお願い申し上げます。

第45回大会成績表

【名人戦】

順位	氏名	得点
優勝	高田 稔	34
準優勝	滝本 昌俊	27
第1位	樋口 栄作	26
第2位	南田 英俊	25
第3位	土屋 潔	24

【本因坊戦】

順位	氏名
優勝	瀧本 将人
準優勝	大泉 和夫
第1位	鈴木 英軍
第2位	有田 矩明

(敬称略)